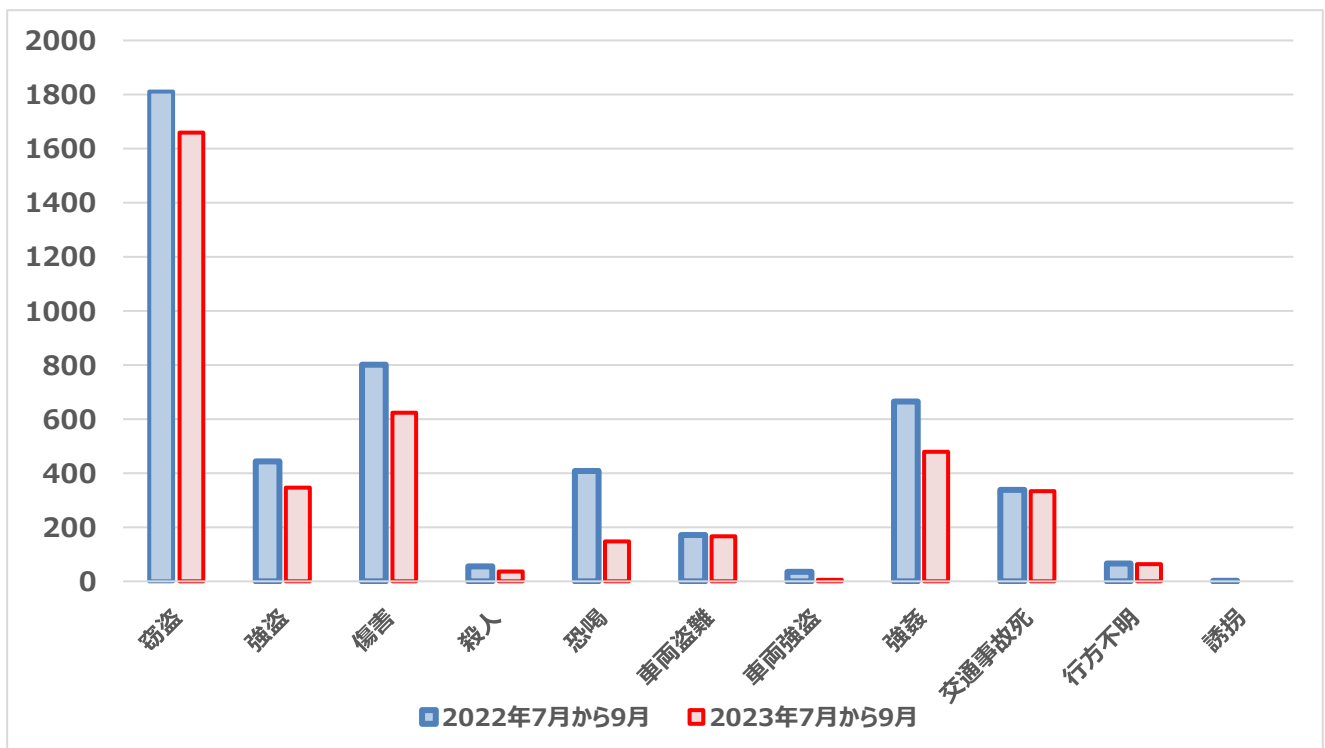


海外安全対策情報

1. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

2023 年 7 月から 9 月におけるエルサルバドル国内での犯罪統計は以下のとおりです。

	2022 年 7 月から 9 月	2023 年 7 月から 9 月	前年差
窃盗	1,811	1,659	-152
強盗	443	347	-96
傷害	801	624	-177
殺人	55	36	-19
恐喝	408	148	-260
車両盗難	171	166	-5
車両強盗	35	5	-30
強姦	665	479	-186
交通事故死	338	333	-5
行方不明	66	64	-2
誘拐	2	0	-2
合計	4795	3861	-934



2023 年 7 月から 9 月における主要犯罪発生件数は、2022 年の同時期と比較して大幅に減少しました。2022 年 3 月に発効され現在も継続中である、「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」によりギャングの取締りを強化したことで、全ての犯罪が減少傾向となっています。しかし、当国は人口比では依然として日本よりもはるかに犯罪が多い国であるため、基本的な防犯対策を継続していただき、十分に注意するようお願いいたします。また、交通事故死の件数が多いため、車両運転時はスピードを抑え、車間間隔を空け、安全運転を心がけるようお願いいたします。

2. 邦人被害事案

日本人の被害は報告されていません。

3. テロ・爆弾事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

5. 日本企業の安全に関わる諸問題

特に報告はありません。

6. 治安関連報道

(1) 「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」の期間延長（7月1

2日、8月10日及び9月13日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

7月11日、8月9日及び9月12日の各月、当国国会は、例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置（30日間））の期間延長を承認した。

ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「この4年間で、我々は人々に希望を取り戻し、繁栄と発展の段階に入ることができた。現在、エルサルバドルが手に入れた治安の良さから、他国はエルサルバドルに期待を抱くようになった」と述べた。

例外措置体制によって、ギャングが72,000人以上拘束され、殺人や恐喝などの犯罪が大幅に減少した。また、ブケレ政権が発足した2019年6月から現在までに、殺人事件が無い日は合計446日間となった。

(2) 国家文民警察官への襲撃について（7月2日及び9月1日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

7月1日午後、クスカトラン県で国家文民警察官が武装したギャングに襲撃された。この襲撃で警察官に怪我はなく、ギャング1名が死亡した。当局によれば、死亡したギャングは、スチト市エルカウロテ地区にあるギャング集団「バリオ18」のメンバーであり、麻薬の違法所持、脅迫、公務執行妨害などの犯罪歴があった。

8月31日、サンサルバドル県ネハパ市でパトロール中の国家文民警察官が、「MS-

13」のメンバーに銃器で襲撃された。襲撃したギャングメンバー2名は、警察官の反撃により死亡した一方、警察官は無傷であった。また、8月30日にも、ソンソナテ県イサルコ市で国家文民警察官が、「バリオ18」のメンバーに襲撃された。襲撃したギャングメンバー1名は、警察官の反撃により死亡した一方、警察官は無傷であった。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「当局に立ち向かおうとしないことだ」と述べた。

(3) カバーニャス県での犯罪地域コントロール計画第5フェーズ「摘出」の実行について（8月2日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

8月1日、ブケレ大統領は、カバーニャス県にいるギャングの残党が近隣の自治体や県に流出することの阻止及びテログループの（資金や武器などの）供給網を遮断することを目的とし、犯罪地域コントロール計画の第5フェーズ「摘出」を同県で実行した。

同作戦では、兵士7,000人、警察1,000人が動員され、1,000平方キロメートル以上を封鎖している。ブケレ大統領は、「この地域のギャングメンバー全員を拘束するまで作戦は維持される。住民や観光客は通常通り活動ができる」と説明した。

(4) ラパス県観光警察本部の設置について（9月6日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

ビジャトロ司法・公共治安大臣及びアリアサ・チカス国家文民警察長官は、ラパス県コスト・デル・ソルに設置された観光警察本部の竣工式に出席した。この計画は、犯罪地域コントロール計画（Plan Control Territorial）の第3フェーズ「近代化」の一部で、投資額は6

4万5,000ドル以上で、この地域の観光開発に貢献するものである。

アリアサ・チカス国家文民警察長官は、「この地域の住民だけではなく、この国の沿岸地帯を訪問する国内外の観光客にもメリットがある」と述べ、本部に駐在する観光警察の部隊は、観光客がこの地域を楽しめるように陸上及び海上パトロールを実施すると説明した。

観光警察本部には、ソーラーパネルや給水システム、監視カメラ、相談窓口、食堂などが整備されており、警察関係者が適切な環境で業務を遂行できるようになっている。また、衛星インターネットも導入予定である。

以上